



やぐもだい

令和 8 年 4 月 30 日
調布市立八雲台小学校
校長 石川 淳
<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



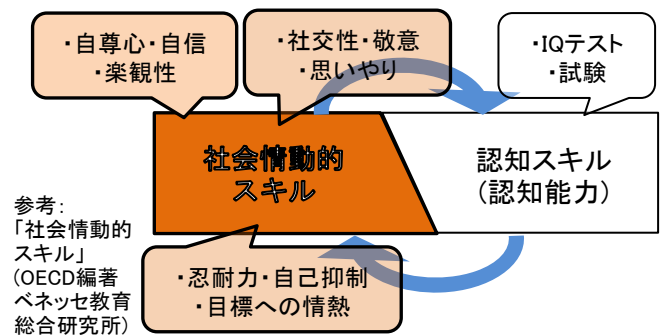
「数値で測れない力」

校長 石川 淳

非認知能力は、OECDでは社会情動的スキルと言われます。IQなどで数値化される認知能力と違って目に見えにくいですが、「学びに向かう力や姿勢」とも言い表せます。目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢等を指します。あえて「スキル」と表し、日常生活の中で具体的な支援を通して子供が身につけることができることを示しているそうです。個人の生来の「気質」「気だて」「性格」「くせ」ばかりではないということです。

非認知能力は、子供時代に、コミュニケーションを中心としたさまざまな体験活動を継続することで育まれていきます。また、非認知能力と認知能力は絡み合うように伸びるそうです。意欲や関心をもって粘り強く取り組むと、それが土台となって自然と深く考えたり工夫したり創造したりして認知能力が高まります。そのように認知能力が発揮された結果、達成感や充実感が得られ「次もやってみよう、がんばろう」と非認知能力もまた強化されます。

OECDが社会情動的スキルと表した非認知能力



ところが認知能力のみを高めても、非認知能力は絡み合っては高まらないことがわかったそうです。初めの土台が数値で測れるものだと「向かうエネルギー・粘り・協調・敬意」等とは絡み合っていきません。

非認知能力を高めるための支援は「それを通して育てたい姿勢や力」をベースにします。例えば、なわ跳びでは「何回跳べるか」ではなく、「なわ跳びの行動を通し、自分なりの目的をもったり、上手にできるように工夫したり、根気強くやり続けたりするか」に重点を置いて支援します。また、土台となる意欲や興味を引き出すには、大人が教えるよりも年上の子や上手な子が行うのを見て「憧れの気持ち」が芽生えると効果的だそうです。「憧れ」が興味や意欲につながっているため、他の子の姿を見て自分が工夫したり、粘り強く練習したりする姿勢を引き出し、非認知能力は一層伸ばしていきます。

大人側のポイントは、適切なコミュニケーションを通して子供の発想を率直に出させることや、一歩踏み込んでその子が考えをめぐらせるような働きかけへの配慮です。現在の私たち大人が働きかけ方を意識して、未来の大人たちの非認知能力を高めておければ、他者とのかわわりを次の原動力にできる子、安心感をもてる子、救われる子が必ずいると考えています。

八雲台小学校学校運営協議会について

八雲台小学校は、令和7年度よりコミュニティスクールとなっています。
学校運営協議会委員の皆様をお伝えいたします。

お名前	プロフィール
宮内 弘	健全育成推進八雲台地区委員会副会長 毎年2年生がさつまいもの苗植えと収穫体験でお世話になっております。
松村 朋子	地域学校協働本部地域コーディネーター 八雲台小学校学習支援員 八雲台小学校地区協議会役員
西下 亜希子	地域学校協働本部地域コーディネーター 八雲台小学校学習支援員 八雲台小学校地区協議会運営委員
中嶋 尊弘	八雲台小学校保護者 小学校教員 東京都教職員研修センター勤務